

**第5回久御山町環境基本計画（久御山町地球温暖化対策実行計画  
「区域施策編」含む）策定委員会**

1 日 時 令和5年4月17日（月） 午後2時00分～4時30分

2 場 所 久御山町役場議会棟4階特別会議室1・2

3 出席者 委 員：8名

オブザーバー：2名

事 務 局：6名

委託事業者：2名

4 内 容

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 情報提供、事例紹介

（1）脱炭素に関する事業者の動向、取組事例について

4 報告事項

（1）久御山町環境基本計画の策定に係るアンケート調査結果について

（2）久御山町環境に関する住民ワークショップの実施報告及び事業所ワークショップの開催  
について

5 協議事項

（1）久御山町環境基本計画の策定に係る前回までの検討事項（第1章～第4章）の振り返り  
について

（2）久御山町環境基本計画骨子案第5章「目指すべき将来像の実現に向けた取組」の検討に  
ついて

（3）第6回計画策定委員会での検討予定事項について

6 その他

（1）久御山町環境審議会への諮問について

7 閉 会

## 環境基本計画に関する委員意見まとめ

### ■協議事項

- (1) 久御山町環境基本計画の策定に係る前回までの検討事項（第1章～第4章）の振り返りについて（資料4-1、4-2）
- (2) 久御山町環境基本計画骨子案第5章「目指すべき将来像の実現に向けた取組」の検討について（資料5（当日配布））
- (3) 第6回計画策定委員会での検討予定事項について（資料6）

### ■主な委員意見

- 第1章第1節において、行政計画というよりももう少し住民や事業所と一緒にやっていくという内容にしてはどうか。
- 京都府の温対計画に関する情報を最新の情報に修正されたい。（令和5年3月に京都府温対計画を改定。温室効果ガスの2030年削減目標を40%から46%に修正）
- 住民・事業所の役割を明確にしてはどうか。
- 危機的状況であることを伝える必要がある。特に「現状維持ではだめ」ということを明確に伝える。
- エネルギーの地産地消について、マネジメント等を含めた視点を盛り込んでどうか。
- 重点指標/成果指標について、「基準値」は「現状値」とし数値を設定していく。
- どうすればCO<sub>2</sub>削減46%になるのかももう少し詳しく教えてほしい。
- 第5章基本目標1で御牧地区を「町西部地域」と表現するのは聞き慣れない。表現を再考してはどうか。
- 「省エネは我慢しなくてもできる」という表現は良い。こういうメッセージを出していくことは非常に重要。
- 環境学習・環境教育について、具体的な施策が必要。
- 中間支援組織について具体的な内容を盛り込む必要がある。
- 計画の進行管理について、現時点でPDCAの流れをしっかりと整理することが重要。（施策をどのように展開し、どうかたちでチェックするか。また住民の皆様にもどのように公表していくかなど）

### ■全体を通して

- 「誇り」や「シビックプライド」の醸成が重要。
- 「地域への愛着」の視点が必要。
- 用語集を用意したほうがよい。
- 計画内容に関連する施策集を作ってはどうか。
- 「みんなで頑張る」「みんなで取り組む」「久御山町として頑張る」「この取組について誇りに思う」という内容にしていただきたい。
- コンパクトタウンというメリットを活かした「久御山町だからこそできる計画」にしてもらいたい。

## 会議議事録

### 次第3 情報提供、事例紹介

#### (1) 脱炭素に関する事業者の動向、取組事例について

##### ●説明概要

- ・事業者2社による脱炭素の取組を紹介。

### 次第4 報告事項

#### (1) 久御山町環境基本計画の策定に係るアンケート調査結果について

(委託事業者より資料1に基づき説明)

##### ●説明概要

- ・前回のアンケート調査結果報告に引き続き、新たに各設問ごとに年齢、職業、居住地域等の属性によるクロス集計を実施。そのクロス集計部分を中心に説明を行った。

##### ●主な意見・質疑応答

(委員等)

クロス集計で網掛けされている部分はこういった基準でしょうか。ご説明していただけますか。

⇒ (委託事業者)

網掛けしている部分はそれぞれのカテゴリーの中で最も多く上がっていた項目となっています。

(委員等)

網掛けが付いている箇所は各行1か所だけですか。

⇒ (委託事業者)

同じ割合のものがどうしても上がってくるところは2つ付いています。

(委員等)

今回はクロス集計を中心にご説明いただきました。やはり食や農作物など環境への関心が非常に高いということは、久御山町ならではと思います。他の地域でここまで高くないのではと思うのですが、このあたりはいかがでしょうか。

⇒ (委託事業者)

食や農作物など環境への関心は高いという印象は受けます。皆さんが身近に感じてられているなという印象を受けております。生産者の顔が見えるとか、すぐそこで田畑がある地域環境が環境意識に繋がっていると考えております。

(委員等)

資料75ページの中学生アンケートの結果で地区ごとに分かれています。例えば久御山町の中でも商業施設側にあるエリアとか、あるいは農村部、郊外の方であるとか、そういう特徴は各地区でありますか。

佐山や下津屋などは比較的「関心がない」ウェイトが高いエリアであると見て取れますが、これは地区として何か特徴的なものがあるのでしょうか。何か読み取れる情報はありますか。

⇒ (事務局)

佐山は住宅地が多い地域になっています。下津屋は住宅地もあり、企業が立地する工業地

帯でもあり、また農地もあります。この結果からなかなか特徴をあげるのは難しいところがあります。なお、表の森地区から上のエリアについては、比較的農地が多い御牧地区というところですが、それに対して、下半分のエリアは住宅地や工業団地がある地区となっています。

**(委員等)**

「関心がある」、「関心がない」は今の時点で良い悪いというわけではなく、中学生で見た場合に今ある社会というのは俗に言う学校の中にある社会から受けた影響は多分にあるのだろうと思います。このような意見が分かれているのは面白く、逆にそこはなぜだろうということが読み解けると中学生に対してどのようにアプローチし、どこの関心を高めていけるのかに繋げることができるかもしれません。このような内容は今日この場だけではなく、引き続き分析や検討を行うと何かきっかけを得られるかもしれません。

**(委員等)**

町域に用途地域は何種類くらいありますか。

⇒ **(事務局)**

先ほど申しあげましたとおり、佐山、佐古、林、野村のあたりに工業地域があり、町中央部は工業専用地域、幹線道路沿いは工業地域となっています。また、佐山や栄というところは住宅が多いところです。御牧地区では市街化調整区域となっています。

**(委員等)**

報告書はこれが確定版でしょうか。また修正されるのでしょうか。

⇒ **(委託事業者)**

アンケート調査結果としてはこれで一旦確定としますが、他の委員の方からもありましたとおり、これをベースとして多様な分析というのは行っていくことは可能と考えています。

**(委員等)**

実際に計画等に活かすためには、この地域の性格等は分析した方がよいかと思います。

## **(2) 久御山町環境に関する住民ワークショップの実施報告及び事業所ワークショップの開催について (事務局より資料 2、3 に基づき説明)**

### **●説明概要**

- ・令和 5 年 3 月 25 日(土)に開催した住民ワークショップの実施概要及びいただいたご意見等について説明。
- ・あわせて、令和 5 年 4 月 29 日(土)に開催予定としている事業所ワークショップの概要を説明。

### **●主な意見・質疑応答**

**(委員等)**

私は他市町でワークショップに参加したことがあるのですが、参加者の中に計画策定委員会の委員や事務局員が一定数入ることがありました。今回そういった方々の参加はありましたでしょうか

⇒ **(事務局)**

今回ご参加いただきました 12 名ですが、事務局員などは入っておりません。純粹に一般の住民さんからご応募いただいた方々となっています。

### (委員等)

ワークショップそのものがあまり理解できていないのですが、12名の環境に関する意見のとりまとめの有効性はありますか。もっと多い人数でないといろいろな意見を集約できないのではないかと思います。それと、参加者12名の中で年齢的にはどのような構成だったのかお聞かせください。

### ⇒ (委託事業者)

今回のワークショップにつきましては、自発的に参加しても良いという方々に参加いただきました。その中で12名の参加というのは非常に凄いなと私は思っております。何もこれが最後ではなく、これをきっかけにこれからもワークショップの展開を図っていただければと思います。また、今回の参加者が環境を推進するリーダーになっていただきたいという思いもお伝えさせていただいております。

なお、当日の参加者の内訳としては、男女比で半々、年齢層は大学生や20代の方もいらっしゃいましたし、30代から60代の参加者もいました。バランス良く年代が分かっていたという印象を受けています。

### (委員等)

このようなワークショップで出た意見というのは自分事としての意見が出てきます。そういったご意見は基本計画の中でも事務局では書けない部分であります。12名の参加者が自主的に参加していただき、積極的なコメントを多くいただけたというのは非常に心強いなと思って聞いておりました。このような取組がさらに展開していくことを期待したいと思います。

### (委員等)

住民の方々が積極的に参加して、良い意見も多く出たかと思えます。その上で「自分でできること」や「みんなでできること」となると、色々なところで言われてきた内容がほとんどではないかなと思ってしまいます。脱炭素に向けてもう少しやるべきことというのは既存の技術で多くあります。そのあたりの情報提供を行いながら、みんなで議論する手法もあります。先進的な取組なども紹介しながら、みんなでチャレンジできることを聞いてみても良いのではないかと思います。

### (委員等)

4月29日に事業所のワークショップが控えています。計画の実施内容にも関係してくると思いますので、ぜひ事務局の方で対応していただければと思います。

確かに何かを考える時にそもそも知らないということがあると、なかなかアイデアが出ないことがあります。ゲーム感覚で結構なのですが、情報を探せるようなやり方をしていただけたらと思います。

### (委員等)

ちなみに次回の事業所ワークショップに参加される方はもともと環境に関心がある方が集まる可能性が高いと思いますが、あまりの関心のない方がワークショップに参加した時にどういった考えをもたれるのかは少し気になることがあります。

この段階では難しいかもしれませんが、特にアンケートを拝見すると「非常に関心のある層」と「あまりない層」が分かれています。「関心のあまりない層」をいかに動かしていくかが重要なこ

とかと思います。

また、どこに課題があってどのような情報があれば良いのか。久御山町の中でどのあたりを攻めればこれからもっと取組を広げることができるのかなどは知りたいところでもありますので、そのあたりも考えながら進めていただければと思います。

## 次第5 協議事項

- (1) 久御山町環境基本計画の策定に係る前回までの検討事項（第1章～第4章）の振り返りについて（事務局より資料4-1、4-2に基づき説明）
- (2) 久御山町環境基本計画骨子案第5章「目指すべき将来像の実現に向けた取組」の検討について（委託事業者より資料5（当日配布）に基づき説明）
- (3) 第6回計画策定委員会での検討予定事項について（委託事業者より資料6に基づき説明）

### ●説明概要

- ・ 次第5協議事項（1）～（3）については、計画骨子案として一括で説明。
- ・ 骨子案第1章～第4章（資料4-1、4-2）については、前回の策定委員会で検討いただいた内容として、修正・整理を行った部分を説明。また、第4章「久御山町が目指すべき方向性」の中で、新たにキャッチフレーズを一新し提示。
- ・ 骨子案第5章（資料5（当日配布））については、環境基本計画の基本目標として、6項目を設定。基本目標1「脱炭素社会の形成」から基本目標6「環境教育・活動の充実」までを説明し、目標設定の方向性を検討。
- ・ 骨子案第6章～第7章（資料6）については、第6章が「区域施策編・気候変動適応計画」、第7章が「計画の進行管理」のパートとなっており、次回の策定委員会の検討事項として予告を行った。

### ●主な意見・質疑応答

#### （委員等）

京都府の情報が少し古いがあるのでアップデートをお願いしたいと思います。資料4-2の13ページ「(3) 地球温暖化防止に関する動向」で下から3行目のところで「2030年度まで40%削減」とあるのですが、こちらにつきましては今年の3月に京都府の温対計画等を改定し46%以上に引き上げていますので、最新の情報にアップデートをお願いします。

#### （委員等）

第5章のところで、「基準値令和3年度」、「目標値令和12年度」と書いてあります。例えば、令和3年度であれば、過去の数値になるのですが、我々は今CO<sub>2</sub>削減で2013年度の基準値を確認することに四苦八苦しています。そこでこの指標とか基準値というのは目途が立っている項目なのでしょうか。

#### ⇒（委託事業者）

基本的には現状を把握できる数値、現状値として取り扱うものとして考えています。現状から目標値としてどれくらいを設定するのかということですので、根拠になる大元の数値によっては5年ごとに調査されるものもあり、基準値の年度が異なることも考えられます。あ

くまで指標として拾える現状の値ということでご理解いただけたら幸いです。

**(委員等)**

第5章の基本目標1の中で記載のある「町西部地域」という表現は久御山町の中ではあまり聞いたことがありません。それと、「農業が盛んである一方、ものづくりの苗処として」と書いてあるのですが、この言い回しは正しいのでしょうか。

**⇒ (事務局)**

確かに「町西部地域」という表現はあまり使う機会が少ないと思います。ご意見を参考にさせていただいて、改めて表現を考えたいと思います。

もう一つ、ものづくりの苗処ですが、旧産業課時代から平成29年頃のタイミングで産業振興計画というものを策定しています。その中のキーワードとして、「ものづくりの苗処」という表現をさせていただいています。苗処は「農業、商業、工業すべて含めて育てていく土壌が整っている」という意味を込めて、「ものづくりの苗処」という表現をこれまでからずっと使っています。それがなかなか浸透していないという認識を改めさせていただきました。このような表現で入れていくのかについてですが、事務局側としては再考いたします。

**(委員等)**

私が言いたいのは「農業が盛んである一方」ということは農業ではないことを表現しないといけないのではないのでしょうか。その鍵括弧のあと、ものづくりの苗処は農業を表していると思いますが、農業の反対というと工業地帯のことを指すと思います。「一方」という語句を使う中で前後の文脈の話です。また、「町西部地域」という表現が気になります。

**⇒ (事務局)**

「農業が盛んである一方、ものづくりの苗処」という部分について、「一方」という表現がマッチしていないのかと思います。改めて申し上げますが、「ものづくりの苗処」は農業を含めて商業、工業全ての要素が育つ土壌が整っているという意味での表現ですので、文章の表現については改めて考えさせていただきます。

**(委員等)**

第1章1ページの「策定の趣旨」ですが、以前にも申し上げましたが、行政文章として全く異論はありません。しかし、住民や事業所がこれを読まれた時に「自分たちがこういうことに取り組む」ということを考えていただきたいと思います。

例えば、最後の段落で「これらの背景を踏まえ」とあるのですが、脱炭素社会の実現に向けた取組について、住民や事業者の皆さんと共にどのように取り組んでいくのかというような表現を入れるということです。あるいは、最後に「行動変容等に発展させていきます」という文章があるのですが、「住民・事業者の皆さんと一緒に共に環境都市久御山町を創り上げていくための計画です」といった表現があると、何か自分たちも取り組まなければならない、久御山町が我々に訴えかけているという印象になります。もちろんこれは感情に訴えるようなところにもなりますが、そのようなことを検討していただくのが良いのではないかと思います。

あわせて、全体として1.5℃目標などはかなり危機的な状況なので、現状として大変だということを伝えた上で、大胆に社会変革をしていくとエネルギーや資金に関しても展望があり、そのためにはかなり大きな変化が必要という内容を見せる必要があると思います。現状でも何とかな

るけど頑張ろうではなくて、現状維持ではだめですよということをもっと明確に計画の中で散りばめた方が良いのかなと思います。

**(委員等)**

重要な部分ですので、文言の修正を全面的にご検討いただき、行政計画というよりも町全体でやっていくというところを強調するなど、住民・事業所をやる気にさせるような文章を意識していただければと思います。

**(委員等)**

資料5の2ページ目に「CO<sub>2</sub>排出量46%削減」とありますが、部門別では産業部門が一番高い割合となっています。また、「事業所への協力を促すとともに、連携の強化を図る」とありますが、事業所の方々の取組が重要になっていくと思います。

その中で地球温暖化への適応というところは非常に難しい部分だと思いますが、本質の1つとして捉えたところ、我慢してエネルギーを使わないのではなく、民間事業者として設備や機器に投資し、成長することが地域の活性化になるという側面があります。そういった事業活動自体が経済の好循環になるというメリットを考慮すると、我慢してエネルギーを使わないのではなく、「例えばこういうやり方があります」とか、もう一段階噛み砕いた考え方があると事業所に対してヒントになると思うので、ここは大事なポイントかと思いました。

あと、極論の話になるかもしれないのですが、CO<sub>2</sub>46%の削減は非常に大きな目標だと思いますが、そこには各個人、各事業者が取り組む内容があると思います。その内容で皆さんが実際に取り組んだ場合、46%削減するためにどういうことをやれば削減できるのか、方策等、お聞かせいただければと思います。

⇒ **(委託事業者)**

2ページであげていただきました、「我慢してエネルギーを使わないのではなく」という表現は事業所のヒントとなるように一緒にやっていくといった内容に繋がっていくと良いかなと思っております。

また、どうすれば46%削減になるのかというところでは、骨子案第6章の部分が地球温暖化対策実行計画「区域施策編」の内容になります。ここで計画目標や事例紹介等をさせていただきながら内容等を展開しております。第6章の方で詳しくふれることができればと思います。

⇒ **(委託事業者)**

先ほどからもありましたように事業所、住民、行政それぞれで取組を進めていくわけですが、特に事業所はおそらく色々な採算とか、それをやることによって何が会社にプラスになるのか、その判断が多いかなと思います。

また、住民のみなさんで「省エネをしていこう」「脱炭素をしていこう」と思ったら、本当に暑いのにクーラーをつけなくてそれで倒れてしまうなどよく問題になっています。頑張っただけで体を壊すなど健康に害を及ぼすようなことがないように省エネというのは、必ず我慢だけではないという啓発が大事だと思いますので、そのような考え方も踏まえてもう少し分かりやすく書ければと思います。



**(委員等)**

「我慢しない」というのは良いフレーズだなと思いました。そういったニュアンスで何が何でも全部押さえて止めることだけではないと思います。プラスのことをやりながら両輪でやっていくということは、この表現で少し伝わったかなと思いましたので、むしろ良い意味でこのフレーズを申し上げました。特段ここ変えてくださいとかそういった意見ではありません。

**(委員等)**

ここはかなり難しいところで、恐らく大手の企業だったら、思い切って投資していくことになるかもしれませんが、普通の個人の方とか中小企業などは結局、本当に必要なエネルギーをどう削るかという内容になります。極端に言えば、太陽からやってくるエネルギーの数%を使えば地球上のエネルギーはすべて賄えるわけですから、元々そのように動いていけば良いのですが、石油や石炭を使い始めて現在の状況になっています。そういう意味では、とても大変なのですが、本来節約をしなくてもその自然エネルギーを活用すれば目標は達成できる。エアコンを節約して熱中症で倒れるみたいなことにならないようなメッセージを出さないといけないと思います。また、「こういう人はこういうことが出来ます」など、きめ細かく内容を掲載できるような、そういう計画にしていく必要があると思います。

**(委員等)**

学級目標やみんなでこれを取り組んでいこうというようなものを決める時に、仲良く助け合える学級というのは前向きなスローガンになります。喧嘩や嫌なことを言わないとか、そういう響きというのはマイナスからゼロに持っていくだけなので、あまり目標として聞きにくいとか受け取りにくいと思います。そのため、我慢してエネルギーを使わないのではなく、何からエネルギーを得て、どのように使うか、何のために使うか、その先にはもっと健やかな健康的な持続発展の社会があり、エネルギーの概念を作り変えるにあたり、各家庭向け、企業向け、また子供向けにそれぞれ何が出来るか細かく説明していくことが重要なのかと思いました。具体的にやることだけを言っても伝わらず、概念を変えと言っても伝わらないと思います。エネルギーに対する考え方をみんなに変えていくために、それぞれできることが立場で違うということを説明する必要があり、色々な立場の人が計画を読んだ時に自分はこの立場か考えることができれば良いのではという印象を受けました。

**(委員等)**

今一度全体の構成に関する確認ですが、本日ご案内いただいているもので第7章までの構成が出来上がっているのですが、全体の構成は7章立てになるイメージでよろしかったでしょうか。

⇒ **(委託事業者)**

そのとおりです。7章立てで展開してまいります。

**(委員等)**

わかりました。中身の議論は色々ご意見もいただき、概ねつまってきているかと思います。そしてこれから目標数値等の精査に入っていくことになると思います。

構成について2つほどコメントです。恐らく用意されるかもしれないのですが、用語集というのは必ず用意していただいた方が良いでしょうと思います。コラムのようなかたちで重要な内容は掲載されていますが、それとは別にグリーンインフラやEco-DRRのような用語は難しいと思

ますので、用語集を用意したほうが良いと思います。あとこれは難しいのですが第5章と第6・7章について、第5章が先に構成されており、第6・7章にコラムが入っています。本当に悩ましいのだらうと思っていますが、このあたりできるだけ分かりやすく書けるように努めていただけたらと思います。

もう一つは、10年計画ということで適時社会の変動や社会に追いつけない変化等があった場合、見直しということになるのですが、PDCAについて記述が見当たらないのですが、このあたりはどこかで書きますか。

⇒ (委託事業者)

PDCAについては、資料6の34ページに計画の進行管理ということで、PDCAサイクルの進行管理を掲載しています。

(委員等)

わかりました。この際どこまでするかになりますが、「環境報告書にまとめた上で公表する」と書いていただいていますので、要はどういうかたちでチェックをし、どういったかたちで住民の皆様へ進行状況をご案内していくかということは、計画を策定する段階でしっかりと整理しておいた方が良いでしょう。

この計画がこの10年間で実りあるかたちになっていくためにも、34ページの第2節にもう少し書き足していただくと良いのかなと思います。また、これも勝手なリクエストですが、どうしても分量が増えてしまいます。おそらく住民が読むとなかなか難しいと思いますので、環境基本計画、温対計画の部分は具体的な部分が必要にはなると思いますが、環境基本計画という町の環境施策の大綱であるということ意識して、大きい書き方であるとか具体の部分についてはそこまで記述しないであるとか、別の施策集のようなものを用意されるか、読み手、住民の方にとって読みやすいものに最後までご尽力いただければなと思います。

⇒ (委託事業者)

章立てで今回第7章までご報告させていただきましたが、最後に資料編を設けさせていただきます。そこにはこれまでの策定経過や用語解説をつけさせていただきます。

また、住民・事業所向けにこの計画をより分かりやすく周知するために、計画の概要版を作成します。

(委員等)

少し関連して私も気付いた点をコメントさせていただきたいのですが、環境問題は全国的に同様の取組を進めていくことになりませんが、一方で久御山町ならではの地特性を活かした先進的な取組を進めていく必要もあると思います。その中で、前回まで議論があったように「地産地消」というのが1つ重要なストーリーとして分かりやすいテーマかと思いますので、久御山町のキーワードとして前面に押し出していくことが重要かと思います。

また、第6章において、具体的に色々な取組やエネルギーの地産地消についても記載されているのですが、この地産地消の考え方をどのように説明するのかはポイントかと思っています。何となく地産地消ではなくて、例えば、町内でエネルギーを生み出すことが地産地消なのか、それに加えてマネジメントしていくことか、エネルギーを生み出すだけでなく、それを自分たちで色々融通して、例えば価格や供給の安定、防災性の向上とかそれらを含めて地産地消と言うの

か、捉え方次第ではストーリーも変わり、後半の第6章の重みも変わってくると思っています。そのあたりについて、第5章、第6章全体で久御山町の地産地消というのは何を指すのか、どういうストーリーをするのか、少し補足をいただければと思います。

#### ⇒ (委託事業者)

環境基本計画の第1章の2ページ目で久御山町における地産地消という位置づけを行い、大きな定義づけをさせていただいております。ここで農産物の地産地消はもちろんですが、電力の地産地消について、災害時におけるエネルギー供給の安定化、地域経済の活性化、雇用の創出、さらには地方創生にも繋げていくということを書かせていただいておりますので、これを受けて第6章でエネルギーマネジメント会社の位置づけやレジリエンスの強化のために地産地消をどう活かしていくかなど、もう少し詳しく分かるように展開にさせていただきたいと考えます。

#### (委員等)

おそらく出資や経営の主体がどういったかたちになるのかによって、「地産」の「産」のイメージが変わってくると思います。昨今の流れでは、どうしても地域内で自治体が関与する体制にしておくこととなります。そういったところも非常に重要なポイントになってくると思います。

単にエネルギーの供給だけではなく、エネルギーをビジネスの核としながら、コミュニティビジネスやモビリティビジネスに展開していくような事例をこれから国も支援していこうという大きな流れがあるのかなと思っています。そういう方向に進めるようにしていただくと大変ありがたいなと考えています。

#### (委員等)

アンケート結果を見ると、関心がないという項目があって、地域別にも結果を出していただいています。私も考えていたのですが、町内を分けると中学生のアンケート結果ですから、佐山校区と御牧校区と東角校区の3校区に分かれていて、御牧校区は農業をしている方も多く、おじいちゃんやおばあちゃんと触れあうとか、実際に田畑で過ごす子どもが割と多いと思います。

一方、東角の方は共働きとか団地に住んでおられる方もおられ、大久保駅に近いこともあり京都駅まで子どもだけでも行くことができるし、子どもも色々な物事を考える機会があるのではないかなと思います。

また、佐山校区は割と安定した土地があり、学校の先生が子どもに対していじめの聞き取り調査をしてくださると佐山校区だけ物凄く件数が多いという状況です。それはなぜかというところ、きめ細かく親が対応してくれているし、子どもも些細なことでも一応言うておくことで件数が上がってくる状況です。

そういう校区の特徴もふまえ、関心のある人と関心の無い人の分かれ目、どこを突いたら関心を持ってくれるかというところはやはり危機感だと思います。その危機感を持っているから多少大変でもお金がかかっても計画に取り組む必要があると思います。

子ども達もこのままではいけないということをやりに知る必要があると思います。しかも、子ども達はこのままではいけないと分かった時に、自分たちはどうしたら良いかまったく分からず、途方に暮れると思います。この温暖化に対して、大人たちはこんなことをやっているということを見学させていただきたいと思います。それは危機感を煽るだけではなく、こういうことも出来

るのだという具体例だと思います。実際にやっている人が教えてくれるわけではなく、エネルギーの概念、働くということの意味、社会と関わっていくということについて良い勉強になるので、このような具体例でもって啓発運動を行い、子ども達にもこの問題について教えていく必要があると思います。

一方で概念的なことだけではなく、具体的に小さいペットボトルをリサイクルするとか、ゴミを捨てないようにするとか、そのようなことだけではなく、もっと大きな社会の動きの中で小学生や中学生としてできることはこういうことがある。しかし、あと何年か先には18歳になり成人になって働く中で今の不利益を何とか乗り越えていこうという気が起こるので、無関心でいられる人は危機感が無いだけだと思います。

あと、アンケートについて、「安らぐから」とか、「みんなで集まれるから」のような回答の中で一番ポイントが低かったのが「誇りに思う」だったと思います。「誇りに思う」ということは、この久御山町を大事に思っているとか、久御山町が取り組んでいることに関して自分もその一部だと思うから、誇りに思うのではないかと思います。

コロナによって失われた絆を取り戻すための様々な取組が久御山町の中で行われようとしていますが、これらの内容について誇りに思うというところがもっと高いポイントになってくるような進め方が必要だと思います。久御山町はみんなで頑張っているという意識をこれから作っていく段階なのだと感じたので、計画にあがっている取組について、目標数値を超えられなかったとしても、みんなで取組をしていることに関して、「誇りに思う」という回答がアンケートで返ってくると良いなと思いました。

#### (委員等)

貴重なご意見いただきましてありがとうございます。そういう観点でいえば、例えば第6章を見ていくと、環境関連の施策は結構書かれているのですが、どのように情報を発信し、さらに情報が届いていない方にどう届けていくのか。また環境教育をどう進めていくのか、啓発をどう進めていくのが大事な取組になります。

住民と事業所のアプローチは違うので、第7章の中で中間支援組織が明記されていますが、中間支援組織の役割について、あまり具体的に書ききれていないと思いました。次回そのあたりが非常に重要なポイントだと思いますので、そういったものを進めていくための具体的な施策や久御山町で進めていくべきなのかというところを補強していただければと思います。

例えば環境体験などを小さい頃から増やしていくことで、誇りを醸成できるように色々な情報を伝えることが重要な環境政策になっていくと思います。

#### (委員等)

先ほど仰っていた地域の誇りを持てるという話をされていて、シビックプライドというキーワードで各自治体は力を入れています。例えば歴史的に昔こういう土地だったとか、こんな人が出生されたとか、そのような内容が地域の結束を強める1つの要因にもなります。

もう1つは地域の愛着に関する研究は世界的にたくさん行われており、自然に対する愛着や文化などが要素としてあるのですが、久御山町に置き換えると、非常に有利な条件が1つあり、規模が小さいことだと思うのです。人口が200万とかではなく、約15,000人の規模で面積もそんなに大きくないところだからこそできることはたくさんあると思います。

また、役所の仕事は縦割りで動くことが多いですが、健康福祉や環境、産業が繋がっていくということが重要であり、その意味では久御山町は産業を所管としている部署に脱炭素が位置付けられているということはかなり有利だと思います。京都府で作られている促進区域のポジティブゾーニングだと、自然環境を守ろうという方ばかりを極度に強調されていて、ここでエネルギーを作り出すのはこんなに良いことがあるというメッセージは強くは出ていないのが現状です。具体的なゾーニングは久御山町の方で決めていただきますので、この地域はこういうエリアでエネルギーをいっぱい作ろうとか、ここは自然を守ろう、みたいなことをその狭いエリアでしっかりと議論していけるとと思います。

あわせて、そのような内容に対しても中学生も十分意見が言える環境を作り上げていくことによって、地域の愛着の醸成に繋がっていくと思います。先ほどの危機感を持つから頑張れるということに関しては、実は人によっては逆もあり、危機感があるけど解決策が認められないから、この危機感は嘘だろと思うなど、認知的不協和という理論で説明されています。「こうすれば上手くいく」というメッセージをあわせて出していくことで、より良い方向に行くのではないかと思います。

## 次第6 その他事項

### (1) 久御山町環境審議会への諮問について

(事務局より口頭で説明)

#### ●説明概要

- ・現在、策定を進めている本計画について、令和5年度4月25日に予定している久御山町環境審議会にて諮問を行う予定としている。

#### ●主な意見・質疑応答

特になし。

## 次第7 閉会

以上